

海軍公報

第五〇六一號

昭和十九年十一月四日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一二二五號
昭和十六年官房第三六一九號海軍軍事關係部外團體等ノ指導ニ
關スル事務分擔ノ件中左ノ通改正ス
昭和十九年十一月一日
海軍大臣

表ヲ左ノ如ク改ム

局 部 課 名	指 導 ス ベ キ 團 體 等
軍務局第三課	海防義會 海軍協會 海軍有終會 洋々會 太平洋協會 くろがね會 海洋道場建設委員會 大日本海洋美術協會 海洋音樂協會 大日本婦人會 其ノ他他部局ノ所掌ニ屬セザル海軍軍事關係團體
兵備局第一課	住宅營團
兵備局第二課	海軍各工業會(協力會ヲ含ム) 軍事工業協議會 重要産業團體令ニ依ル各統制會 重要産業協議會 日本經濟聯盟會 全國商工經濟會協議會及各商工經濟會 工政會
兵備局第三課	大日本潛水協會 中央水產業會 大日本水產會 船舶運營會 日本海運協會 日本海運協會 日本海運報國團 日本海員救濟會 帝國水難救濟會 港灣協會 日本港運業會 日本海事振興會 水上消防署協贊會
兵備局第四課	大日本產業報國會 大日本勞務報國會 扶桑會 日本厚生協會

海軍公報、第五〇六一號 昭和十九年十一月四日

四一三

艦政本部 總務部第一課	經理局第三課	教育局第三課	教育局第一課	人事局第一課	
造船協會	三笠保存會 東京郡銃後奉公會聯合會 大日本百貨店組合	大日本青少年團 大日本海洋少年團 大日本學徒海洋教練振興會 學校報國團 部外學校學徒關係團體	大日本體育會 銃劍術振興會 武德會 講道館 大日本射擊協會	海櫻移動藝能隊 職長教育指導協會 東鄉會 忠靈顯彰會 軍人援護會 師範出身徵兵關係諸團體 大日本傷疾軍人會 全國社會事業協會 在郷軍人會	

<p>教育第三二八號ノ二 昭和十九年十月二十七日</p>	<p>航空本部 總務部第一課</p> <p>大日本飛行協會 大日本航空青少年隊 大日本航空婦人會 大日本航空美術協會</p> <p>（諸例則卷三、二七八ノ六頁參照）</p> <p>○ 通 牒</p> <p>兵備第三五三號 昭和十九年十月二十七日</p> <p>海軍省兵備局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>民間工場事業場ノ標札掲出ニ關スル件申進</p> <p>首題ノ件今般陸軍、海軍、軍需、運輸通信四省間ニ於テ申合ノ上左記ノ通定メラレ候條可然取計相成度</p> <p>記</p> <p>軍需會社指定工場（軍需會社法ニ依ルモノ）又ハ管理工場（工場事業場管理令ニ依ルモノ）ニ付テハ軍需會社又ハ管理工場タルコトヲ記入シタル標札ハ之ヲ掲ゲザルコト但シ監督工場（海軍ニ在リテハ海軍監督工場規程ニ依ルモノ）ハ之ヲ用フルヲ妨グズ</p>	<p>大日本飛行協會 大日本航空青少年隊 大日本航空婦人會 大日本航空美術協會</p>
----------------------------------	---	---

關係各廳長殿 海軍省教育局長

官立無線電信講習所ニ配屬セラレタル海軍現
役武官ノ教育擔當等ニ關スル件申進

首題ニ關シ別紙甲號運輸通信省通信院電波局長及官立無線電信
講習所長宛協議ニ對シ同乙號、乙號ノ二ノ通異存無之旨回答有
之候條了知相成度

(別紙甲號)

教育第三二八號

昭和十九年九月二十一日

海軍省教育局長

運輸通信省通信院電波局長殿
官立無線電信講習所長殿

官立無線電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教
育擔當ニ關スル件協議

首題ノ件ニ關シ別紙第一及同第二ノ如ク協定致度候條御了承相
成度

(別紙第一)

官立無線電信講習所(鶴沼支所)配屬海軍武
官教育擔當等ニ關スル件

一 教育ノ擔當及實施

(イ) 昭和十八年勅令第五八八號第一條規定ノ海軍豫備員候補
者トシテ必要ナル教育ヲ擔當ス

(ロ) 無線電信講習所教育規程ニ依ルノ外海軍豫備練習生教育

綱領ニ基キ實施ス尙生徒ノ訓育ヲ擔當スルモノトス(配屬
武官ニ生徒ノ訓育ヲ派遣下士官ニ生徒ノ訓育事務ヲ囑託セ
ラルモノトス)

二 身分關係

昭和十八年勅令第五八八號第二條規定ニ依ル

三 職務並ニ學校職員トノ關係

(イ) 講習所諸規則、教育綱領、教程表、教育實施細則等ノ制
定及改正並ニ入所、卒業各試験、生徒ノ採用、進級、命免
及卒業ニ關シテハ主要職員同様之ニ干與スルモノトス
(ロ) 所務會議、職員會議等重要會議ニハ主要職員同様之ニ參
加スルモノトス

(ハ) 所長ハ配屬武官擔當ノ教育實施ニ際シ之ニ關係スル職員
ヲシテ配屬武官ノ指示ヲ受ケシムルコト

(ニ) 配屬武官擔當ノ教育ニ關シ書類ヲ提出スル時ハ所長ヲ經
由スルモノトス

(ホ) 海軍豫備練習生教育査閲ハ別ニ定メアル同規程ニ依ルモ
ノトス

(ヘ) 配屬武官教育ノ目的ヲ以テ海軍ヨリ戰技演習其ノ他ニ出
張セシムルコトアリ

四 經費

配屬武官ニ要スル經費ニ關シハ俸給赴任轉任其ノ他海軍ノ
用務ヲ以テスル出張等ノ費用ハ海軍省ノ負擔トシ講習所勤務
中ノ費用ハ講習所ニ於テ之ヲ負擔スルコト

海軍公報 第五〇六一號 昭和十九年十一月四日

四一五

(別紙第二)

官立無線電信講習所(熊本支所)配屬海軍武官教育擔當ニ關スル件

一 教育ノ擔當及實施

(イ) 昭和十八年勅令第五八八號第一條規定ノ教練ヲ擔當ス

(ロ) 無線電信講習所教育規程ニ依ルノ外別紙ノ如ク擔當實施ス尙生徒ノ訓育ヲ擔當スルモノトス(配屬武官ニ生徒ノ訓育ヲ派遣下士官ニ生徒ノ訓育事務ヲ囑託セララルモノトス)

二 身分關係

昭和十八年勅令第五八八號第二條規定ニ依ル

三 職務並ニ學校職員トノ關係

(イ) 講習所諸規則、教育綱領、教程表、教育實施細則等ノ制定及改正並ニ入所、卒業各試験、生徒ノ採用、進級、命免及卒業ニ關シテハ主要職員同様之ニ干與スルモノトス
(ロ) 所務會議、職員會議等重要會議ニハ主要職員同様之ニ參加スルモノトス

(ハ) 所長ハ配屬武官擔當ノ教育實施ニ際シ之ニ關係スル職員ヲシテ配屬武官ノ指示ヲ受ケシムルコト

(ニ) 配屬武官擔當ノ教育ニ關シ書類ヲ提出スル時ハ所長ヲ經由スルモノトス

(ホ) 教練ニ關スル教育柵關ハ別ニ定アル同規程ニ依ルモノトス

四 經費

(ハ) 配屬武官教育ノ目的ヲ以テ海軍ヨリ戰技演習其ノ他ニ出張セシムルコトアリ
配屬武官ニ要スル經費ニ關シテハ俸給赴任轉任其ノ他海軍ノ用務ヲ以テスル出張等ノ費用ハ海軍省ノ負擔トシ講習所勤務中ノ費用ハ講習所ニ於テ之ヲ負擔スルコト

(別紙)

一 配屬武官ハ左ノ教務ヲ擔當ス但シ每週擔當教務時數ハ十五時間以內トス

軍事學及演習

通信術及電測術ノ一部

防諜ニ關スル事項

體操

技業ノ一部

軍事學及演習ノ範圍

海軍須知事項一般

陸戰教練(小隊)

通信兵器、通信法及通信要務概要

電測關係兵器及電測法一般

暗號法ノ一部

機密保持

手旗信號法、發光信號ノ初步

梯漕法

(リ) 軍事講話

(別紙乙號)

通波監第六一九號

昭和十九年十月三日

通信院電波局長

海軍省教育局長殿

無總電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教育協
當ニ關スル件

首題ノ件異存無之候

尙本件無總電信講習所ニ對シ御趣旨ノ通取計フコトニ連絡致
置候條御諒知相成度候

(別紙乙號ノ二)

無講教第一四二三號

昭和十九年十月九日

無線電信講習所長

海軍省教育局長殿

官立無線電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教
育分擔ニ關スル件回答

對教育第三二八號(昭和一九、九、一九)
首題ノ件異存無之相當手配濟ニ付諒知相成度

繕本第八號ノ三二七九

昭和十九年十一月三日

海軍公報 第五〇六一號 昭和十九年十一月四日

各海軍工作廳長殿

海軍工廠資金ヨリ造船造兵材料物品ノ供給ヲ
受ケル場合ノ特例ニ關スル件照會

海軍艦政本部長
海軍航空本部長
海軍電波本部長

首題ノ件ニ關シテハ今般官房經第九五七號ヲ以テ大正十四年八
月官房第二七一九號ノ特例發付セラレ候處特ニ左記ニ依リ適當
ナル運用ヲ計ル様留意相成度

記

一 資金材料ヲ購入スル場合ニハ官房第二七一九號別紙書式ヲ
使用スルモ番號別及部局別整理ヲ要スルモノノ外ハ之ヲ要求
元別工場別ニ記入スルヲ要セズ豫算科目別ニ一括記入ノコト
トシ要スレバ之ニ數工場ニテ使用スル數品名各種寸度ノ材料
ヲ明記シタル別紙ヲ添付處理ノコト

二 購入後ノ材料ハ會計部ニ於テ保管シ必要ニ應ジ所要ノ材料
ヲ工場ニ交付シ併セテ其ノ間各工場間ノ彼此融通ヲ計ル如ク
取扱ヒ材料管理ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト
尙從來ヨリノ直買材料ノ取扱ニ關シテモ此ノ際右ノ通取扱フ
ノコト

○ 雜 款

○ 轉 官

海軍技手中島寅男ハ九月三十日高尾州郡技手ニ、同渡邊作藏ハ

同日臺灣總督府專賣局技手ニ執モ轉官セリ
海軍書記新島忠雄同河内 透ハ十月十六日孰モ大阪府警部補ニ
轉官セリ
海軍技師北村市太郎ハ十月二十八日鐵道官ニ轉官セリ

○正誤

海軍會計法規類集三卷七六ノ五七頁末行ノ次ニ左ノ通脱ス

一 貸與品

作業帽

一人ニ付 一個

地下足袋

同 一組

卷脚絆

同 一組

二 貸與者

屋外作業ニ従事スル徵用工員

三 貸與法方

入部ノ際貸與シ之方使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキハ現場
主任(判任官以上)ノ證明ニ依リ更ニ新品(再用古品)ト

引換貸與スルコトヲ得

四 支辨科目

臨時軍事費(款項)運輸費

(海軍省 經理局)

海軍書記石原登一郎ハ十月二十二日死去セリ

海軍公報

第五〇六二號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月七日(火)

○通 牒

經給第二號ノ一八ノ三

昭和十九年十一月六日

海軍省經理局長
海軍運輸本部長

關係各廳長殿

入營者旅客運賃割引證ヲ内地鐵道共通使用

ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ左記申照會ニ對シ乙號ノ通運輸通信省鐵道總局業務局長ヨリ回答有之候ニ付了知相成度

記

(甲號)

運本機密第一〇一八號

昭和十九年七月十一日

海軍運輸本部長

運輸通信省鐵道總局業務局長殿

入營者旅客運賃割引證ヲ内地鐵道共通使用

ニ關スル件照會

今般勅令第三三九號ニ依リ朝鮮、關東州及滿洲國ニ於ケル在留内地人ニ對シ海軍志願兵徵募ヲ施行シ各地ニ於ケル採用者ハ全

海軍公報 第五〇六二號 昭和十九年十一月七日

部内地海軍部隊ニ入團(隊)セシメ教育實施ノコトニ定メラレ候處現行ノ入營者旅客運賃割引證ハ内地區間ノミ有效ニシテ外地鐵道ニテハ使用不可能ノ爲内地別業ノ割引證ヲ必要トシ新兵トシテ入團(隊)スル者ノ不便ハ勿論外地鐵道機關ニ於テモ取扱上困難シツアル實情ニ有之候條入營者旅客運賃割引證一葉ヲ以テ内地外通ジ有效トナル如ク取計相煩度

(乙號)

鐵業輸三第一九一號

昭和十九年十月二十三日

運輸通信省鐵道總局業務局長

海軍運輸本部長殿

七月十一日附運本機密第一〇一八號ヲ以テ御來照ニ係ル入營者旅客運賃割引證ニ關スル件ハ御來意ノ通之方取扱ヲ爲スコトトシ別紙ノ通手配致置候條左様御了知相成度

(別紙) 昭和十九年十月二十日運輸通信公報第二九二號

● 達第八〇二號

昭和十九年十一月鐵道省告示第五百七十六號ニ依ル入營者ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ昭和二十年十月三十一日迄連絡運輸ノ取扱ヲ爲スベシ

入營者ニ對スル連絡運輸取扱方ノ件

四一九

記

社員ハ社費ニ充ツル爲毎年十二月一日現ニ受クル年俸百分ノ一ニ相當スル金額(厘位切捨)ヲ同日以後一年分ノ社費トシテ豫出スルモノトス但シ十二月二日以降新ニ社員ト爲リタル者ハ其ノ際現ニ受クル俸給月額ノ百分ノ一ニ次期豫出期日迄ノ期間(一月未滿切捨)ヲ乗ジタル額ヲ豫出スルモノトシ豫備役又ハ退役ノ社員(召集中ノ者ヲ除ク)及退職又ハ退官ノ社員ハ豫金ヲ行ハズ尙社費豫出後次期豫出期日迄ノ間ニ於テ社員身上ニ異動アルモ當該期間ノ社費ヲ増減又ハ返還スルコトナシ

○宿所並ニ電話架設

海軍運輸本部總務課長兼第一課長海軍大佐國府田 清宅
埼玉縣入間郡高階村藤間一八〇

電話川越 四八六番

○轉官

海軍技手佐用徳司、同櫻井 茂ハ十月三十一日孰モ鐵道官補ニ轉官セリ
海軍司政官横大路俊一ハ十一月一日内務書記官ニ轉官セリ

海軍書記若崎義男ハ十一月四日厚生局ニ轉官セリ

一 入營者ヨリ省線ト内地連絡運輸規則及日滿支連絡運輸規則ニ依リ連絡運輸ヲ爲ス運輸機關(華北線及華中線ヲ除ク)ニ跨ル連絡乗車券ノ購求方申出アリタルトキハ一葉ノ入營者旅客運賃割引證ヲ收受シ旅客運賃ヲ左ノ通低減ス

イ 各鐵道、軌道及自動車線 五割

ロ 各社航路 二割

二 入營者ニ對シテハ旅客ノ連絡運輸ヲ爲ス省社間ニ於テハ省連絡運輸區域外ニ亘ルモノト雖モ連絡乗車券ノ發賣ヲ爲スコトヲ得

三 前各號以外ノ取扱ハ内地連絡運輸規則、日滿支連絡運輸規則及昭和九年十一月鐵道省告示第五百七十六號ノ定ムル所ニ依ル

附則

昭和十五年十月連第八一〇號入營者ニ對スル連絡運輸取扱方ノ件ハ之ヲ廢止ス

○雜 款

水交發第一一四九號ノ二

大東亞戰爭中水交社規則第十條第一項ノ規定ニ依ル水交社費ノ釀出ニ關シテハ同規定ニ拘ラズ昭和十九年十二月一日ヨリ左記ニ依リ之ヲ實施ス

昭和十九年十一月六日

水 交 社 長

海軍公報

第五〇六三號

昭和十九年十一月十三日(月)

海軍大臣官房

○令 達

達第三六四號

昭和十九年達第八二號海軍技術科武官任用特例ニ依リ下士官ニ任用セラレタル者ノ特技章付與ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月八日

海軍大臣

「海軍下士官ニ任用セラレタル者」ヲ「海軍下士官ニ任用セラレタル者ニシテ築城施設關係ノモノ」ニ改ム

(諸例則卷二、一一〇ノ二頁参照)

官房經第一〇一一號

昭和十九年官房經第四七七號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月九日

海軍大臣

別表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 海軍内國旗費規則第七表ノ額ヲ超ユル旅費ヲ受クル者ニハ手當ヲ支給セズ

(参照) 海軍會計法規類集二卷四八一頁

○雜 款

○宿所並ニ電話

海軍氣象部長 海軍少將 渡邊清七宅

鎌倉市材木庫九一六番地

電話鎌倉 七九四番

○轉官

海軍警部三谷 渡ハ十月三十一日香川縣屬ニ轉官セリ

海軍司政官小玉眞貫ハ十一月四日臺灣總督府地方理事官ニ、同

鈴木武男ハ同日地方事務官ニ執モ轉官セリ

海軍書記遠山 靜ハ十一月五日內務屬ニ轉官セリ

○休職満期

海軍技師平林初雄、同染川俊夫ハ十一月八日執モ休職満期ト爲レリ

1275

海軍公報

第五〇六四號

昭和十九年十一月十四日(火)
海軍大臣官房

○令 達

達第三六五號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

第一條、第九條、第十三條、第二十條、第四十一條、第六十一條乃至第六十三條、第六十九條ノ二、第九十六條、第九十七條、第九十九條、第一百條、第一百七條、第一百八條、第一百九十一條、第二百四十七條、第二百四十八條及第二百六十八條中「艦團其ノ他各部」ヲ「艦船部隊其ノ他ノ各部」ニ改ム

第二條ノ二中「召集中ノ例」ノ下ニ「豫備員タル少尉候補生ニ在リテハ現役軍人タル少尉候補生ノ額」ヲ加フ

第十六條中「艦團其ノ他各部」ヲ「艦船部隊其ノ他ノ各部」ニ改メ第三項ヲ削ル

第十九條中「第十五條及第十六條第二項及第三項」ヲ「第十六條」ニ改ム

第三十一條中「露領」ヲ「蘇聯領」ニ改ム

第五十五條、第二百二十八條、第三百三十七條ノ二及第四百十九條中「團隊」ヲ「部隊」ニ改ム

第六十五條中「海軍將校相當官現役期間特例」ヲ「海軍將校相當官服役特例」ニ改ム

海軍公報 第五〇六四號 昭和十九年十一月十四日

第六十六條及第六十七條ヲ削リ第六十五條ノ二ヲ第六十六條、第六十五條ノ三ヲ第六十七條トス

第六十八條削除

第二百二十條ノ二 給與令第七十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ給與スル被服物品及同條第二項ノ規定ニ依ル使用期間ハ第十九表ノ二ニ依ル

第二百二十條ノ三 給與令第十三表ノ三第十一號乃至第十七號ニ掲グル物品ニ付現品給與ニ代ヘ代料ヲ支給スル場合ハ之ヲ一年十五回トス

前項ノ代料ハ新ニ採用セラレタルトキハ其ノ月ヨリ、轉勤、轉職、免職又ハ死亡ノトキハ其ノ月迄月割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

第一項ノ代料ハ毎年九月ニ於テ之ヲ支給ス但シ轉勤、轉職、免職又ハ死亡ノトキハ其ノ際支給ス

第二百二十條ノ四 給與令第七十九條ノ四ノ規定ニ依リ貸與スル物品ハ第十九表ノ三ニ依ル

第二百二十條ノ五 給與令第七十九條ノ五ノ規定ニ依リ辨償セシムベキ代價ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ル給與令第七十九條ノ六但書ノ規定ニ依リ返納セシムル金額ニ付亦同ジ

四二三

1276

第三百三十一條ノ二中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」

ニ、「第十九表ノ二」ヲ「第十九表ノ四」ニ改ム

第三百三十六條ヲ削リ第三百三十六條ノ二ヲ第三百三十六條トス

第三百三十八條中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ改

ム

第十一表備考第十二號中「露領」ヲ「蘇聯領」ニ改ム

第十四表中「艦團」ヲ「艦船部隊」ニ、「露領」ヲ「蘇聯領」ニ

改ム

第十九表ノ二中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ改

ム同表ヲ第十九表ノ四トス

第二十表ノ二備考第一號中「二十錢」ヲ「三十錢」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第

六十六條乃至第六十八條、第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五、

第三百三十一條ノ二、第三百三十八條及第十九表ノ二ノ改正規定ハ

昭和十九年十月十一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

従前ノ海軍給與令第五十九條ノ規定ニ依リ初度手當ノ支給ヲ受

ケタル者ニ付テハ第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ

昭和二十一年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ該當スル者昭和二十一年四月一日前第二百二十條ノ

二及第二百二十條ノ四ニ掲グル物品ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ

於テハ本人ノ申請ニ依リ當該物品ヲ給與又ハ貸與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該物品ノ給與又ハ貸與ヲ受ケタル者故意又

ハ過失ニ依リ其ノ物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ第二百二十條ノ五ノ規定ヲ準用ス

(別表添)

(參照) 海軍會計法規類集二卷四五頁

作戦部隊用海軍會計法規類集一四七頁

連第三六六號

供給勞働者扶助令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

第五條中但書ヲ削ル

(參照) 海軍會計法規類集二卷五二五頁

○通牒

經給第二二六號

昭和十九年十一月十三日

海軍省經理局長

關係各廳長、殿

海軍監獄看守及海軍警査ノ被服物品代價ノ件

通牒

海軍給與令施行細則第二百二十條ノ五ノ規定ニ依リ辨償セシムベ

キ被服物品ノ代價ハ當分ノ開別表ニ依ル義トシ知相成度

(別表添)

(達第三六五號別表)

(昭和十九年十二月十四日海軍公報)

備考		第十九表ノ二 被服物品及使用期間										
本表ノ被服物品ハ通常物品トシテ取扱フモノトス	雨衣	短外套	外套	略服	夏服	冬服	略帽	帽	帽	品名	定數	使用期間
	一個	一個	一個	二組	二組	二組	一個	一個	一個	半靴	一組	一年
	無期	無期	無期	無期	無期	無期	無期	二年	無期	カ ラ 靴	二個	每年五月一日及十一月二日宛交付ス
		靴下	夏襦袢	冬襦袢	ネ、クタイ	手袋	ワイシャツ又ハ開襟シャツ	カ ラ 靴	半靴	品名	定數	使用期間
		四組	二個	一個	一個	一個	二個	二個	一個	品名	定數	使用期間
		每年五月一日及十一月二日宛交付ス	一年	三年	一年	一年六月	一年	每年五月一日及十一月二日宛交付ス	一年	品名	定數	使用期間

(達第三六五號別表)

(昭和十九年十一月十四日海軍公報)

第十九表之三 貸與物品定數表		品名	數量
刀	刀緒		一
刀	帶		一
帽	前章		所要數
略	前章		所要數
襟	章		所要數
識	別章		所要數
防	寒用被服		一組
作	業用被服		一組
卷	脚絆		一組

備考
 一 防寒用被服、作業用被服又ハ卷脚絆ノ貸與ハ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル
 二 本表ノ物品ハ通常物品トシテ取扱フモノトス

(經給第二三六號別表)

(昭和十九年十一月十四日海軍公報)

備考	被服物品代價									
	品名	代價	減額率	品名	代價	減額率				
一 使用期間六月ニ滿タザル日數ハ六月ト看做ス 二 計算上十錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツルコトヲ得	冬 襦 袷	五五〇	六分ノ一	夏 襦 袷	四三五	二分ノ一				
	ネノクタイ	七〇		防 寒 用 被 服	三三〇					
	開襟シヤツ	二八〇	二分ノ一	卷 脚 絆	五〇	四分ノ一				
	ワイシヤツ	二八〇		識 別 章	一三〇					
	カ ラ	四〇	全 額	襟 章	五〇	三分ノ一				
	半 靴	一六五〇	二分ノ一	略 帽 前 章	五〇					
	雨 衣	四六〇〇	八分ノ一	刀 帶	五〇〇					
	短 外 套	五五〇〇	二十分ノ一	刀 緒	二二〇	二十分ノ一				
	外 套	六二〇〇		刀	三〇〇					
	略 服	二五〇〇	四分ノ一	靴 下	三五〇	全 額				
略 帽	一五〇	三分ノ一								
實 費										

海軍公報

第五〇六五號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月十七日(金)

○令 達

達第三六七號

昭和十九年達第三三四號工具養成所ノ見習科、補修科及選科ノ教育ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十四日

海軍大臣

第二號中「見習科、」ヲ削ル

(諸例則卷三、五六四ノ九九頁参照)

官房軍第二二五四號

臨時糧食生産班規程申左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十五日

海軍大臣

第七條中海軍省軍需局員「七人」ヲ「十人」ニ改ム

(諸例則卷一、一〇六ノ六ノ二頁参照)

○通 牒

兵備二第一號ノ二〇四

昭和十九年十一月十六日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

海軍通信隊ニ於ケル公衆通信取扱ニ關スル件申進

客年兵備一第一號ノ四〇申進首題ノ件申左記ノ通改メラレ候

記

東京通信隊ノ通信電波「三三三」ヲ「三三九」ニ改ム

(諸例則卷三、六七二頁参照)

○雜 談

○外國武官離任

在本邦泰國大使館附空軍武官空軍中佐 Korn Kornkosiyakert
ハ十一月十三日離任セリ

水交發第一一八六號

大東亞戰爭中水交社規則ニ拘ラズ在郷社員、推薦社員、海軍部
外高等官又ハ海軍部内高等官待遇囑託(外國人ヲ除ク)ニシテ
當時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官待遇徴用員ノ水
交社施設利用ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十一月十七日

水 交 社 長

一 施設ノ關係上在郷社員及推薦社員ノ水交社施設利用ニ關シ

海軍公報 第五〇六五號

昭和十九年十一月十七日

四二五

制限ヲ設クルノ已ムナキ場合ト雖モ在郷社員及推薦社員中海軍ノ高等官待遇囑託ト爲リ當時海軍ニ於テ勤務スル者ハ其ノ勤務期間中ニ限り現役社員ニ準ジ各地水交社、同分社及集會所ノ諸施設ヲ利用セシムルモノトス

二 海軍部外高等官又ハ海軍部内高等官待遇囑託ニシテ當時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官待遇職員中水交社施設ノ利用ヲ希望スル者ハ各地水交社ノ銓衡ニ依リ其ノ勤務期間中ニ限り之ヲ社員待遇トシ各地水交社、同分社及集會所ノ施設中食堂部ニ限り之ヲ利用セシムルモノトス

三 前號ノ規定ニ依リ社員待遇ヲ希望スル者ハ別紙第一様式ニ依リ社員待遇申込書ニ海軍勤務廳長ノ證明ヲ求メ給與掌理者ヲ經由シテ最寄水交社ニ申込ムモノトス

四 前諸號ノ社員及社員待遇者ハ左ノ區分ニ依リ社費ヲ釐出スルモノトス

- 第一號 該當社員 海軍ニ於ケル報酬額ノ千分ノ十
- 第二號 該當ノ海軍部外高等官タル社員待遇者 本官ノ俸給額ノ千分ノ五
- 第二號 該當ノ海軍部内高等官待遇囑託及同僚社員タル社員待遇者 海軍ニ於ケル報酬額ノ千分ノ五
- 五 東京水交社以外ノ各地水交社ニ於テ第二號ニ依リ社員待遇者ヲ銓衡シタルトキハ毎月一日別紙第二様式ニ依リ社員待遇付與者名簿ヲ調製シ之ヲ東京水交社ニ送付スルモノトス

(別紙添)

水交社第一一八七號
水交社内ニ於ケル取締上當分ノ間水交社社員證ノ發行ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十一月十七日

水 交 社 長

第一條 社員中離現役ノ海軍高等武官、候補生及推薦社員(召集中ノ者及昭和十八年官房軍機密第四一五號ニ依リ海軍身分證明證ヲ所有スル者ヲ除ク)ニ對シ附圖第一様式ノ水交社社員證(以下社員證ト略稱ス)ヲ發行交付スルモノトス

第二條 社員證ハ東京水交社及各鎮守府、各警備府所在地ノ各水交社(以下各地水交社ト略稱ス)ニ於テ之ヲ發行スルモノトス

前項ノ社員證ハ各地水交社、同分社及集會所相互ニ通用スルモノトス

第三條 社員證ノ發行交付ヲ受ケントスル者ハ別紙第一様式ニ社員證用寫眞(名刺型)一葉ヲ添ヘ最寄ノ各地水交社ニ申込ムモノトス

第四條 各地水交社ハ別紙第二様式ニ依リ社員證發行原簿ヲ備ヘ社員證ノ發行交付及返還ヲ確實明瞭ナラシムルヲ要ス

第五條 東京水交社以外ノ各地水交社ハ別紙第三様式ニ依リ毎月一日現在ニ於ケル社員證發行現況報告書ヲ調製シ東京水交社ニ之ヲ送付スルモノトス

第六條 社員中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ第一條ノ

規定ニ依ル社員證ノ發行ニ代フルニ昭和十八年官房軍機密第
 四一五號ニ依ル海軍身分證明證表面ノ「證」ノ上部ニ附圖第
 二様式ノ證印ヲ捺捺スルモノトス

一 現役ノ海軍高等武官及候補生、海軍高等文官
 二 離現役ノ海軍高等武官、候補生ニシテ召集中ノモノ
 三 在郷社員及推薦社員ニシテ海軍ノ高等官待遇囑託ト爲リ
 常時海軍ニ於テ勤務スルモノ
 四 海軍部外高等官、海軍部内高等官待遇囑託（外國人ヲ除
 ク）ニシテ常時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官
 待遇徵用員ニシテ希望ニ依リ社員待遇ト爲リタルモノ
 前項ノ證印ハ各地水交社ニ於テ之ヲ捺捺ス

第七條 各地水交社、同分社及集會所ハ社（所）内ニ於ケル取
 締上重要スレバ社員證又ハ證印アル海軍身分證明證ノ提示ヲ求
 ムルコトヲ得

社員及社員待遇者ハ前項ノ提示要求ニ對シ之ヲ拒ムコトヲ得
 ズ

第八條 社員證ヲ亡失シタルトキハ速ニ交付ヲ受ケタル水交社
 ニ其ノ旨届出ツルモノトス但シ此ノ場合ニ在リテハ届出ノ日
 ヨリ二月間再交付スルコトナシ

（別紙添）

○事務開始
 海軍省人事局第三課八十一月九日海軍省第三分室（東京都目黒

海軍公報 第五〇六五號 昭和十九年十一月十七日

區大岡山東京工業大學内）へ移轉完了事務ヲ開始セリ電話ハ海
 軍省第二交換所經由第三分室構内線ヲ使用ス

○宿所並ニ電話

海軍航空本部第二部長 海軍少將 佐伯甚七宅

東京都目黒區自由ヶ丘三一四

電話荏原 八三〇六番

○休職満期

休職海軍技手守屋 淳ハ九月十三日、同山崎眞義、同佐伯英三
 郎、同福重達藏ハ十月一日、同佐藤修朗ハ十一月一日孰レモ休
 職満期トナレリ

四二七

1283